



# コロナ危機から いのち・くらし守れ

## 第2回定例会 報告

緊急事態宣言が解除されましたが、生活の不安は解消されず雇用や営業も深刻なままです。

日本共産党は、医療と検査の体制を抜本的に強化し、市民の命とくらし、中小事業者の経営を守るために全力をつくします。



日本共産党札幌市議会議員

吉岡 ひろ子

### "重症化してもベッドがない!?"

— おおもとに病床削減路線が、  
国に再考を求めよ

集団感染によって多くの方が命を落とした茨戸アカシアハイツ。こうした悲劇のおおもとに、病床削減計画の実行を迫る国と、それを容認する市政があります。

札幌市では、介護を手厚くできる療養型の病床が、1万床（2004年）から7600床（2016年）に減らされてきました。市は陽性患者をアカシアハイツ施設内に留め置いた理由を、「（介護と医療の）両方を備えた入院先が非常に少ない」と説明しましたが、こうした事態を招いたのは行政の責任です。

共産党市議団は、「重症化しても病床すら確保できないという医療崩壊寸前の事態。国に対し、病床削減を求める地域医療構想の再考を求めよ」と迫るとともに、アカシアハイツの検証と結果の公表、再発防止を強く申し入れました。

### コロナ禍で窮状にあえぐ中小事業者への支援金を抜本的に引き上げよ

自粛要請に応じた中小事業者はもちろん、そうでない業者も売り上げの落ち込みは深刻です。

北海道と市の共同支援金は、休業要請に応じた事業者と持続化給付金の対象となる事業者それぞれ5万円（北海道と合せて10万円）です。

共産党市議団は、市長も休業等の損失からみれば「ほど遠い金額」と認めるほどだと指摘。「存続の危機にある中小業者を救うことは、本市の経済と雇用を守ること」であり、「抜本的に引き上げるべき」と求めました。

市は、「休業補償につきましては、国の責任のもとおこなわれるべきもの」とのべるだけでした。

### PCR検査の強化で感染の抑止を

— 医療、介護、保育所、障がい者施設など  
直接出向いて検査を

感染の拡大を防ぐには、陽性者を一刻も早く発見し、他の人との接触を断つことです。

共産党市議団は、「医療や介護、保育所、障がい者施設は、人と人が密接にかかわらざるを得ず、感染を未然に防ぐ必要性が極めて高い」と指摘。「本市が直接出向いて、働く職員や患者、利用者へのPCR検査を行い、施設内での集団感染を未然に防ぐべき」とたどしました。しかし、市は「感染者を確認した場合…（PCR検査）を速やかに行ってる」などと背を向けました。

### 重症者の病床確保、 中小企業へ支援を

— 市議団が緊急要望

日本共産党札幌市議団は5月19日、秋元市長に3度目となる緊急要望を行ないました。

集団感染が発生した茨戸アカシアハイツの入所者を「即刻、病床を確保し、入院させること」「フェイスシールドやマスクなどの医療用物資の支援拡充」「中小企業への固定費補助や市税の減免」など、10項目を求めました。

